

千葉県市川市教育委員会

人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育

～コミュニティ・スクールの取組～

千葉県市川市教育委員会
教育長 田中 庸恵



1. はじめに

市川市は千葉県北西部に位置し、江戸川を挟んで東京都と接する、歴史的な街並みや、文教・住宅都市など、様々な面をもつ豊かな地域である。

市川市における学校地域連携の歴史は古い。「子供を介してコミュニティづくりをしたい」という当時の市長の思いから、「学校を開き、家庭・地域・学校が一体となって子供を育てよう」と呼びかけ、1980（昭和55）年「コミュニティ・スクール事業」が始められた。これは、現在国で進めるコミュニティ・スクール（以下CS）の考えを先進的に取り入れたと言える取組である。結果として地域と学校の距離を縮める契機となった。

その後、現在に至るまで、「学校を開き、家庭・地域・学校が一体となって子供を育てる」という理念は、市川市教育の根幹を成しており、教育方針・施策の原点にもなっている。

2. 市川版CSの構築

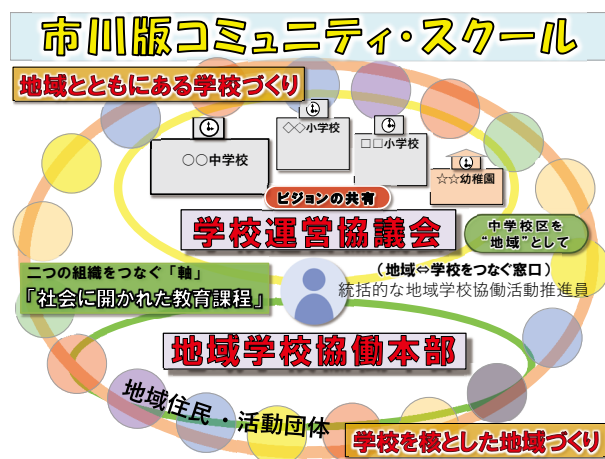
学校地域連携に歴史と思い入れのある市川市だからこそ、地域住民の参画を得て多くの関連事業が生まれた。しかしながら、それぞれの会議に、同じ顔ぶれが出席することになることも多く、一部の地域住民には大きな負担となっていた。

そこで、千葉県初の義務教育学校「塩浜学園」の開校を機に、2015（平成27）年、本学園をCSに指定し、学校運営協議会を設置した。元々学校と地域の交流が盛んだった塩浜地区では、CS導入によって関連する会議体が整理・統

合され、学校・地域住民双方の負担を軽減しつつ、有効な話し合いが持てるようになった。

本市では、学校運営協議会の設置と地域学校協働本部を一体的に整備していくことを推進するために、地域学校協働活動推進員を各校・園に配置することも並行して行った。

2019（令和元）年度には市内全ての幼・小・中・義務教育学校・特別支援学校に学校運営協議会の設置を完了した。翌2020（令和2）年度には、市内全ての中学校・義務教育学校区に地域学校協働本部を立ち上げ、市川版CSの制度が完成した。これにより学校運営協議会で校長から示される学校運営のビジョンの方向性を地域で共有し、地域学校協働本部が具体的な活動を展開していくことで、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」双方の取組が可能になっている。



これらの取組が認められ、市川市ではここ数年で4度の「『地域学校協働活動』推進に係る文部科学大臣表彰」を受けている。

平成29年度：第八中学校ブロック

平成 30 年度：第六中学校ブロック
令和元年度：塩浜学園（義務教育学校）
令和2年度：第一中学校ブロック

3. 取組の具体例

学校運営協議会では、学校長が作成する学校運営方針の承認を行ったり、学校関係者評価をしたり、意見を学校運営に反映させたりすることはもちろん、地域を挙げて子供たちをどう育てていくかという熟議が活発に行われている。以下に、取組の具体例を挙げる。

(1) **第八中学校ブロック**：学校支援活動に長く取り組み、「ダメでもともと!」を合言葉に、学校からニーズを引き出し、地域人材を活用してきた。このブロックは、学校支援コーディネーター（現 地域学校協働活動推進員）導入のモデル地区として、また各校のコーディネーターが中学校ブロックでチームとなり活動に取り組む先進地として、意欲的に活動している。中でも、「放課後カルチャー」は地域人材が生徒の同好会活動を支援する活動で、学校職員の負担軽減と地域の人材活用両方を実現している好例と言える。

(2) **第二中学校ブロック**：幹線道路の整備による交通量の増加という課題が学校運営協議会で議題に挙がったことから、「みまもりたい」という地域住民による登下校の見守り活動が立ち上がった。



【写真1】 地域学校協働活動推進員も自ら見守り活動を行う

地域学校協働活動推進員を中心に、現在 30 名以上の地域住民が登録し、毎朝夕、ブロック4校（小学校2校、中学校1校、特別支援学校1校）の児童生徒の見守りを行っている。新たに開通した道路で特に危険な箇所には信号機を設置するため、協議会委員を中心に様々な要請・陳情を重

ね、実現に至った。

(3) **福栄中学校ブロック**：学校運営協議会で、不登校生徒について課題意識が共有された。そこで引きこもり支援経験のある地域住民を中心にして、「地域カフェ」を校内に設ける活動が始まった。不登校生徒の支援とともに、地域住民や教職員が気軽に集い、語り合える場として、月に1回開催を続けている。お互いの距離を縮める格好の場となり、この場から新たなつながり生まれ、地域活動の連携を図る貴重な場にもなっている。

(4) **塩浜学園ブロック**：市内における CS 事業のモデル地区であり、従前より地域と連携した活動が盛んである。地域学校協働本部の提案で、月初めの3日間を「はまっこサポートあいさつの日」として、保護者、地域住民、学校職員と一緒にピンクのタスキや帽子をかぶって朝の挨拶運動を行っている。月の半ばにはPTAによる見守り活動、月の終わりには生徒会が主体の挨拶運動を行うなど、それぞれの活動としても充実した取組が行われている。



【写真2】 「はまっこサポートあいさつの日」

4. 今後の取組

市川版 CS の取組は、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」双方の取組が可能であり、効果が大いに期待される。制度が整った今、学校と地域への CS 認知度をさらに上げ、より多くの地域住民にも積極的に関わってもらえたらと考える。

これまで市川市が長い間にわたり築いてきた、学校と地域の連携体制や地域教育力を基盤にし、「人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育」にあるように、未来を生きる子供たちの育成に、地域とともに一層取り組んでいく所存である。